

No.2 SPIKES

——悪い知らせの伝え方を「プロトコル」として学ぶ

導入

「がんです」「余命3か月です」——医師はこうした「悪い知らせ」を患者・家族に伝えなければならない場面に必ず直面する。しかし医学部入試・面接で「悪い知らせの伝え方」を問われたとき、「優しく丁寧に伝えます」としか答えられない受験生がほとんどだ。この講座では、国際的に標準化されたコミュニケーションプロトコル「SPIKES」(Setting / Perception / Invitation / Knowledge / Emotions / Strategy)を習得し、医師のコミュニケーション能力を論述・面接で実証できるようにする。

授業目標

- SPIKESの6ステップを正確に説明し、各段階の意義を述べられる
- 「悪い知らせを伝える場面」の模擬ロールプレイでSPIKESを適用できる
- インフォームドコンセント・自律尊重原則とSPIKESの関連を論証に使える
- 面接で「患者に悪い知らせを伝える際に大切なこと」を論理的・具体的に答えられる

授業構成 (90分)

時間	内容
0～15分	衝撃体験：SPIKESなしの告知場面 vs SPIKESを使った告知場面の比較（動画orシナリオ）
15～40分	SPIKESの6ステップ詳解と、各ステップでの言語表現・非言語コミュニケーションの要点
40～70分	シナリオ別ロールプレイ（がん告知・手術合併症・予後不良の告知）
70～90分	面接応用：「悪い知らせの伝え方で大切なこと」への論証型回答の組み立て実習

課題

授業後：「医師が患者に悪い知らせを伝える際に最も重要なこと」をSPIKESと倫理原則を使って論述（600字）を作成・提出。

備考

医学部対応。総合型選抜・MMI（多面的面接）を採用する大学を志望する受験生に特に推奨。コミュニケーション能力を客観的に示す最も強力なツール。